

播種時期の違いがニラの抽だいに及ぼす影響

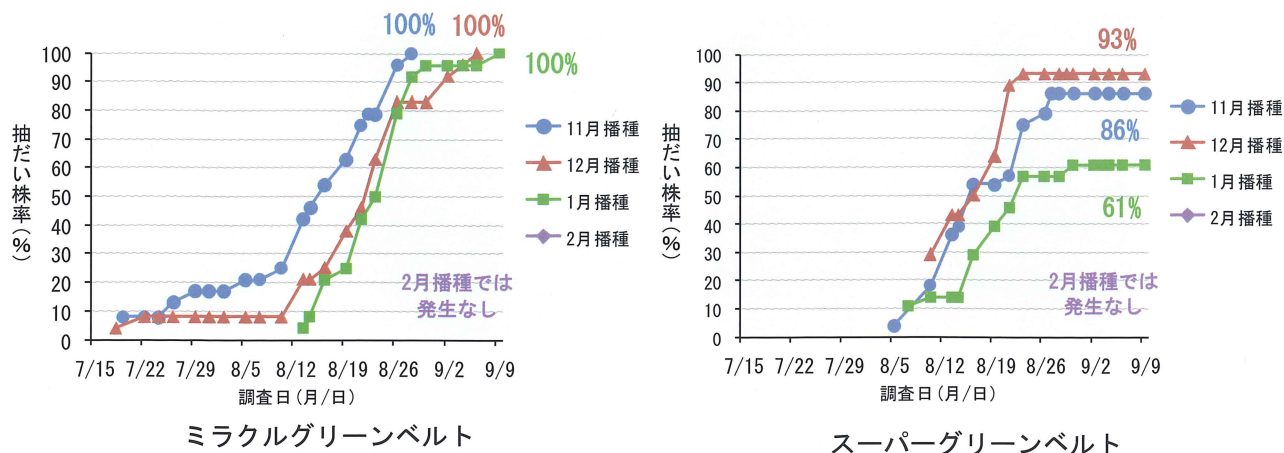


図1 播種時期を変えたニラにおける抽だい発生株率の推移

注) ミラクルグリーンベルトは24株/区、スーパーグリーンベルトは28株/区。反復なし。

表1 収穫時の抽だい発生率および生育²⁾

品種	播種	定植時 葉数	収穫日	抽だい 発生率	草丈 (cm)	葉鞘長 (cm)	1茎葉数 (枚/茎)	分けつ数 (本/株)	総重量 (g/株)
ミラクル GB	11月	3.5	8/22	11	53.9	8.1	6.6	20.1	360.3
	12月	4.9	8/28	21	51.3	6.4	6.9	21.0	417.7
	1月	3.7	9/2	27	54.3	6.4	7.5	21.0	452.8
	2月	3.8	10/7	0	55.5	5.9	7.6	14.1	432.8
スーパー GB	11月	4.2	8/27	14	42.5	4.8	7.2	20.1	252.4
	12月	4.0	8/29	16	45.9	4.8	7.6	23.3	305.3
	1月	2.9	9/3	6	46.6	5.2	7.3	21.3	274.4
	2月	3.4	10/8	0	46.8	5.0	7.3	18.8	291.7

2) 播種は各月5日、定植は11・12月播種：5月14日、1月播種：5月21日、2月播種：6月25日。各区8株の平均値。抽だい発生率は、発生茎数/分けつ数×100で算出。

当センターでのこれまでの試験より、ニラの電照栽培では厳寒期の増収が期待できる一方、春以降の抽だい発生や、電照終了後の一時的な収量低下が認められることがわかっています。これらの問題を解決するため、令和元年度より、開花特性の解明および電照栽培技術の確立を目指して試験に取り組んでいます。

ここでは、播種時期が、夏秋期の抽だい発生に与える影響について紹介します。

抽だいは、‘ミラクルグリーンベルト’では、11月播種は7月19日、12月播種は同月18日、1月播種は8月13日に発生し始め、その後、8月26日～9月9日の間に全株で確認されました。‘スーパーグリーンベルト’では、11月播種は8月5日、12月播種は同月10日、1月播種は同月7日に発生し始

め、抽だい株率は、11月播種で86%、12月播種で93%、1月播種で61%でした。2月播種では両品種とも抽だいが認められませんでした(図1)。

収穫時に、抽だい発生率を調べたところ‘ミラクルグリーンベルト’では12・1月播種で高く、‘スーパーグリーンベルト’では11・12月播種で高い傾向でした。両品種とも総重量は11月播種で軽く、分けつ数は2月播種で少ない傾向でした(表1)。

今後は、育苗管理の違いやハウス内外の気象などと抽だいの関係について、さらに詳しく分析する予定です。

(先端生産システム第二担当 和田絵理子

088-863-4918)